

第 57 回学術講演会（ファジィフロント）のご案内

テーマ：日常生活行動コンピューティング

人間の日常生活を支援することは情報技術の工学として重要な課題であり、福祉技術や生活関連製品開発やビジネスに直結する基盤研究です。「現在の状態」を観察するだけでなく、「一歩先の状態」を観察するセンシングの基盤技術や、要素技術としてだけでなく、社会システム技術として乳幼児・高齢者の事故予防分野へ応用などに関して分かり易くご講演をして頂きます。どなたでもご自由に参加できますので、当日直接会場までお越し下さい。

■主催：日本知能情報ファジィ学会関東支部

■日時：日時：2007年6月16日（土）14：30～17：15

■会場：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー6階 BT0605教室

総武線：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分

都営新宿線：市ヶ谷駅下車徒歩10分

東京都千代田区富士見2-17-1

TEL：03-3264-9240

行先地図 <http://www.hosei.ac.jp/hosei/campus/annai/index.html>

■参加費： 無料（ただし資料代実費のご負担をお願いする場合があります）

■講演スケジュール

14:30 - 16:00 「日常生活コンピューティングとサービスインテグレーション」

西田佳史 氏 ((独)産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター)

講演概要：

センサ技術とインターネット技術の発展によって、日常生活を計算の対象にすることが十分現実的になってきた。日常生活を計算対象にする上で、サービスと統合するという視点が従来のユビキタス情報処理やセンサネットワークをさらに大きく発展させる可能性を持つ。実例として子供の死因の一位となっている傷害を予防する応用に対する日常生活コンピューティングの紹介を行う。

16:00 - 16:15 休憩時間

16:15 - 17:15 「日常生活行動理解の研究基盤と知識循環」

本村陽一 氏 ((独)産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター)

講演概要：

日常生活における人間行動の理解は、子供の傷害予防に限らず幅広く適用可能な基盤技術になりえる。本発表では、日常生活コンピューティングの多面的な応用として、人間の認知構造や評価構造をグラフィカルモデルによりモデル化し、それを応用した情報システムの実現する例をベイズ推定の枠組みから紹介し、さらにこうした日常生活行動研究を多方面で進めるために行っている知識循環のためのWebサービスの仕組みについても述べる。

■講師紹介

○本村陽一 氏 ((独)産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター)

1993年電気通信大学大学院修士課程修了。1993年電子技術総合研究所入所、2001年産業技術総合研究所情報処理研究部門主任研究員、2003年～同研究所デジタルヒューマン研究センター主任研究員。人工知能学会ベストプレゼンテーション賞、研究奨励賞など受賞。電子情報通信学会、日本人工知能学会、日本神経回路学会、日本認知科学会、日本行動計量学会、マーケティングサイエンス学会、IEEE各会員

○西田佳史 氏 ((独)産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター)

1998年東京大学大学院機械工学専攻博士課程修了。1998年電子技術総合研究所入所、2001年産業技術総合研究所デジタルヒューマンラボ研究員、2003年～同研究所デジタルヒューマン研究センター人間行動理解チームリーダー。ロボット学会論文賞、研究奨励賞などを受賞。

■問い合わせ先：

小林一行

法政大学工学部システム制御工学科

E-mail: ikko@hosei.ac.jp

橋本智己

埼玉工業大学工学部ヒューマン・ロボット学科

E-mail: tomomi@sit.ac.jp